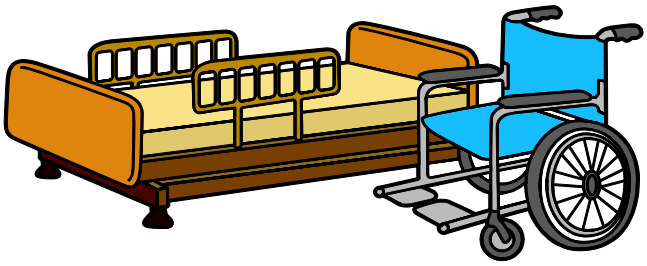
「さ　さ　え」

2004. 1 発行　情報誌　第 6 号
発行　ＮＰＯ福祉用具ネット事務局
住所／福岡県田川市伊田４３９５　福岡県立大学生涯福祉研究センター内
ＴＥＬ／ＦＡＸ　０９４７－４２－２２８６
Ｅ－ｍａｉｌ　npo-fukusiyougunet@sage.ocn.ne.jp
HP　http://www10.ocn.ne.jp/~npofynet/enter.htm

福祉用具はあなたの自立をささえます

あなたのささえがＮＰＯ福祉用具ネットを元気にします



小さな芽を
すこやかに育てたい

特定非営利活動法人
NPO福祉用具ネット

NPO 福祉用具ネットのロゴマークは明石尚典さんのデザインです。

新年を迎えて

ＮＰＯ福祉用具ネット理事長
豊田　謙二　(福岡県立大学教授)

新年明けましておめでとうございます。

このＮＰＯ福祉用具ネットは、２００２年の１１月にＮＰＯ法人格を取得し、この年２年目を迎えています。これまでに、県産炭地域振興センターからの助成を得て「床ずれ予防マット」などを開発し、初めて国際福祉機器展にも出品できました。香春町からは「福祉のまちづくり基本構想」の策定依頼をお受けし、また例年のように「福祉用具選定セミナー」や「福祉用具フォーラム」を開催し多くの参加者を得ました。

私どもは、自立支援に向けて福祉用具と住宅改修の重要性を訴えるとともに、自立支援を基にする福祉社会づくりを提案しています。用具や住宅などを活用した生活環境づくりこそが、自立的生活への途と考えているからです。

今年もこれまで以上に、その趣旨をアピールしつつ事業に取り組む所存です。私は、「競争」と「紛争」を是とする思想に「自立」と「支えあい」を掲げて対決したいと思います。この道はとても狭く、そして遠いように思えます。皆様にこの道を一緒に歩いて下さいと呼びかけつつ、新年の言葉といたします。

エアマットの開発研究に取り組んで

福岡県立大学看護学部
松原まなみ (教授)

平成１５年春、福岡県立大学に看護学部が開設されたことを機に、NPO 福祉用具ネットの福祉用具開発事業の一端として、開発商品の評価研究を看護学部が担うこととなった。

助産師である私は、これまで育児用品メーカーとタイアップした商品開発評価に携わった経験（主に人工乳首）を持っていた。しかし、この度は「床ずれ防止エアマットの開発」。これは、私にとって研究対象が乳児から老人へと 180 度の方向転換という気がした。しかし、考えようによっては商品開発に向けての研究という点では共通している。とまどいながらも、元来、実験研究が好きで、新奇の発想を元手に仕事することが好きな私にとって、NPO や日立の皆さんと一緒の仕事はとても楽しく、この半年間はあっという間に過ぎた気がする。

紹介されたエアマットは従来品に比べ、発想の点からも、機能的にも大変優れたものであることはすぐに見て取れた。しかし、それを研究結果として明確に証明しなければならない。これまでのエアマットは、局所にかかる体圧を分散させることによって褥そう予防をはかる。しかし、今回開発された製品は、体圧分散が良いのはもちろんのこと、従来品で避けられなかった、エアによる浮遊感を解

消して寝心地がよいことに加え、細かなエアーセルを上下させることにより血管に適度な刺激が加わり、血行促進効果をねらったという点で、新しい発想に基づく画期的な製品である。評価に協力する者として、是非その特長が出せるような評価方法を選択する必要があった。

責任の大きさを実感しつつも、サーモグラフィーや皮膚温による血流測定、脳波による快適性・安楽性の評価、発汗量によるストレス度測定など、いくつかの評価項目を設定して分析を試みたところ、現在、予備実験の段階ではあるが、従来品に比べて格段によい結果を得ることができた。本実験はこれからではあるが、看護学部に期待された役割はなんとか果たせそうだと、ほっとしている。

ともすれば、象牙の塔と批判されることも多い大学にあて、地域や企業の方々と一緒に仕事のできるこのような機会は我々大学教員にとって大きなチャンスである。独立法人化を目前に控え、大学教員はさらに視野を広げ、外の世界に踏み出していくことが重要である。そのための協働姿勢がこれからの大学教員に求められていると感じる今日この頃である。

エアーマットの開発に取り組んで

福祉ＳＤグループ
松原　昌三 (代表)

この開発について、背景、経過、ドキュメント、成果の４つに分けて記述します。

１．背景

筑豊地区は近年超高齢化と企業離れ（従来形企業の激減）により、若者を中心とする人口の減少が各地域で起こっており町の活性化が失われつつあります、この本質的不況の流れを打開するためには、高齢化社会を逆手にとって福祉産業の活性化を計るべき、その一環として我々（ＮＰＯ福祉用具ネットＨ１４年度設立）は福祉用具の開発による町おこしにがんばっております。

具体的には高齢化とともに増加しつつある寝たきり老人、痴呆老人をいかに少なくくいとめるか、その予防対策の視点として自立性の向上をキーワードにしました。

そこで従来の褥瘡予防エアーマットに血行改善機能を設けたエアーマットの開発を着手しました、またこの機能を中心に展開として「寝たきり」から「健常者」まで広範囲に健康改善がなされる即ちユニバーサル商品へと大きな目標をかかげました。

この開発には「県地域振興財団・産炭センター」よりＨ１４～１６年度助成金の支援をいただいております、早く商品化し地域の活性化に寄与したいと思っております。

２．経過

■Ｈ１２年度に従来の褥瘡予防エアーマット（体圧切替式）による円筒平行状形セルの欠点を改良する方法として、ミニキュービックセルを格子状に配列し体圧切替（膨縮）を千鳥状にしたエアーマットの原理試作を完成した（九州日立マクセル㈱と福祉ＳＤグループ共同による）。

■Ｈ１４年度に「ＮＰＯ福祉用具ネット」の設立と共に、福祉用具開発事業として産炭センターより「介護用シャワー」「褥瘡予防エアーマット」「その他福祉機器」の開発助成金を受け、産学官共同による開

発を着手。

■Ｈ１５年度　エアーマットのレベルアップに全勢力をかかげ、ミニキュービックセルの確立のために試作金型費の投入を含め、駆動部、クッション材、カバーの構造等、ＮＰＯのネットワークの活用、九州日立マクセルの技術、県立大看護学部の評価技術、及び工業技術センターの協力等により、Ｈ１５年中旬開発目標であった体圧分散性の向上、寝心地性の向上（血行の改善）、自立性の向上（ベットと車椅子との移乗性の向上）等などを完成するに至った。

■Ｈ１５年１０月１５～１７日におけるＨＣＲ（国際福祉機器展）に出品、東京ビックサイト３日間での手ごたえは約２０００名の方が本製品に感心を持たれたことでも証明された。

■Ｈ１５年１２月４日産炭センターへの中間報告として飯塚開発機構センターにおける同審議会にて発表する。

３．開発ドキュメント

①ミニキュービックセルの開発

格子状配列のセルを千鳥状に膨縮させる基本構造は、体圧変換移動時における身体の安定性にすぐれ、またギャッジアップ等のベット駆動時に対しフレキシブルに対応出来る理想的な構造であることが証明された。

反面このミニセルの製作にあたっては材料の選択が非常に難しく、即ち強度、膨縮時の音、成形上の難易、コスト等多くの問題があり解決にはほぼ１年あまりを要し決着をつけたのは、このミニセル状マットの上にウレタンフォーム（低反発ウレタンフォーム）を合わせた複合方式をとることにした。

②移乗性の向上（自立性の向上につながる要素）

近年、自立性の向上が最重要テーマになりつつあり、それに伴い車椅子からベット、ベットから車椅子へ簡単に移乗出きることが注目をあげている。

そこで上記エアー駆動部を適切な大きさにしマットのほぼ中央部に嵌め込み形にすることにより、経済的効果は勿論、そのサイドスペースにやや硬めのクッション材を設けることが出来、しかもギャッジアップにも対応出来る「波形切り込みミゾ」をつけたサイドフレームを両サイドに設けた構造は移乗時のスムーサが従来より大幅に改善された。

③寝心地性向上への検証

ミニキュービックセル＋ウレタンフォームの複合効果は体圧分布性の向上のみならず、種々なる実装テストにおいて特に脳波（α波発生率）テストにおいて他社製品に比べ優れていることが検証され、このことは従来製品ではありえなかった寝心地性も優れた褥瘡予防エアーマットが開発されたといっても過言ではないと思います。

４．成果

商品化決定　今年発売予定

第 5 回福祉用具選定セミナー

4 日間の日程で「福祉用具選定セミナー」を 10 月 11 月の土曜日に開催しました。21 名の方に修了証書を交付しました。このセミナーの開催も今年で 5 回目となりましたので、バージョンアップして痴呆関連や口腔ケアについての講義を追加しました。

実演は 11 月 29 日のフォーラムの展示会場を利用して移乗方法や福祉車両・車いすの選び方について山形先生(別府リハビリテーションセンター)、松尾先生(佐賀大学)に講義を担当していただきました。福祉用具を取り揃えての講義を準備するのは、とても大変なので一石二鳥を狙ってフォーラムの日程に合わせて企画したのですが、事務局のスタッフがいないので大変でした。NPO の会員でいつも活動を助けてくれている設計士の清原佳子さんがボランティアで協力して下さったので大変助かりました。事務局のスタッフは経理を助けてくれている野村と大山の 2 人だけです。企画や準備から後片付けまでの表から裏まですべてを行うことはとても大変なのですが、多くの学生ボランティアや友人に助けていただき無事終了しました。(事務局　大山)

全課程の修了者は以下の通りです。(敬称略)

吉丸あけみ　大野厚子　大倉美鶴　三俣喜久雄　中山美代子
財前篤子　伊藤行徳　重石美和子　加藤秀　海尾美年子
中島美津江　城下邦芳　村田知之　武内浩子　田中正江
西村恵　(暖家の丘)　金丸直美　(暖家の丘)
加藤民江　(ホームヘルプ愛)　大村節子　(ホームヘルプ愛)
坂木久美子 (西日本在宅介護センター)　毛利美奈子(西日本在宅介護センター)
屋形広美　(社会保険田川病院)

福祉用具フォーラム FUKUOKA 2003

昨年の 11 月 29・30 日の 2 日間、福岡県立大学体育館・生協内・体育館前駐車場を利用して、42 社に出展の協力を得て福祉用具・福祉車両・健康機器の展示を行いました。福祉用具研究会から引き継いで 5 回目の実施となりました。多くの出展社のご協力と福岡県立大学の学生ボランティアや筑豊市民大学の友人達、NPO 福祉用具ネットの会員の皆様に支えられてやっと開催できた展示会でした。

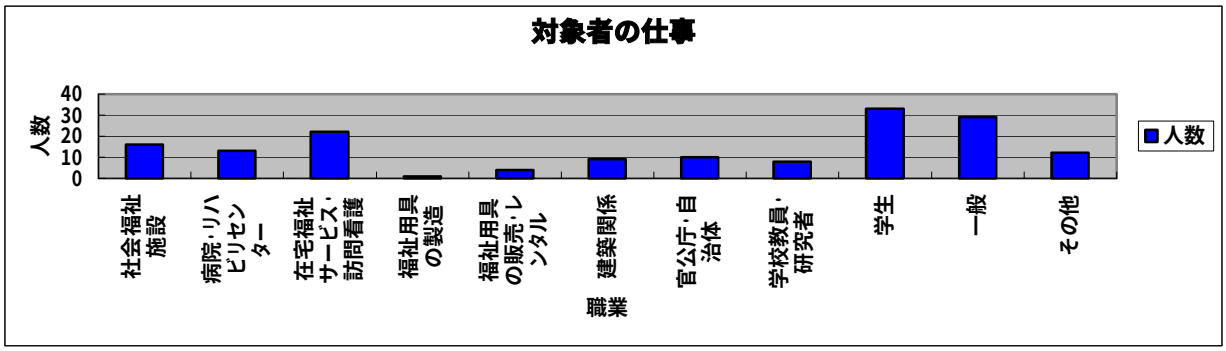
介護保険の導入で益々進化している福祉用具ですが、福祉用具は実際に触れて試さなければ活用しにくいものです。ケアマネージャーも良く知らない用具は利用者には紹介できないと言っています。最新の用具を理解して生活に取り入れることは自立支援や介護負担の軽減には欠かせないものだと思います。

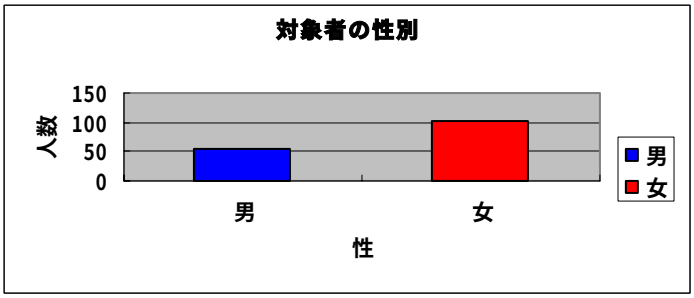
身近で福祉用具に親しんでいただけるチャンスをと事務局は今回も苦労して多くの経費を費やして準備をしましたが来場者数は決して多いとは言えず、無理にお願いをしてご協力いただいた出展社の皆様には大変申し訳なく思っています。NPO 福祉用具ネットの「田川を福祉用具の里に」との思いはとても険しいと感じています。(事務局　大山)

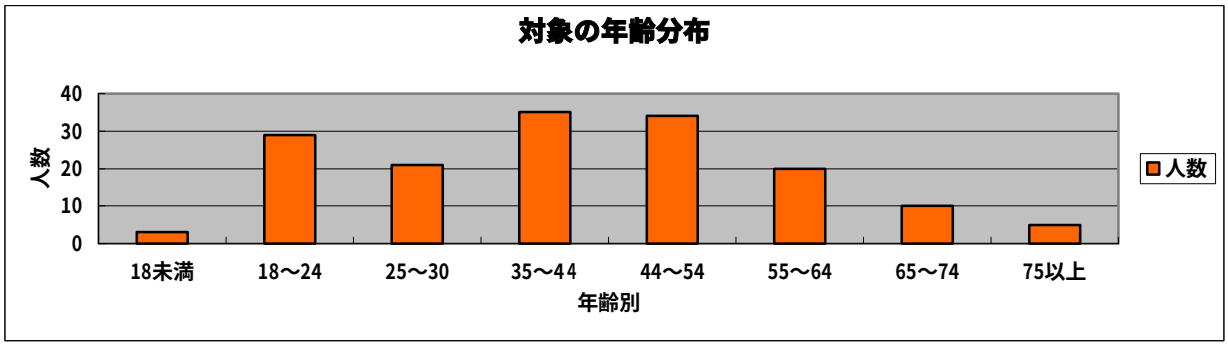
松尾清美理事「福祉車両の選び方」の講義　(第３会場)

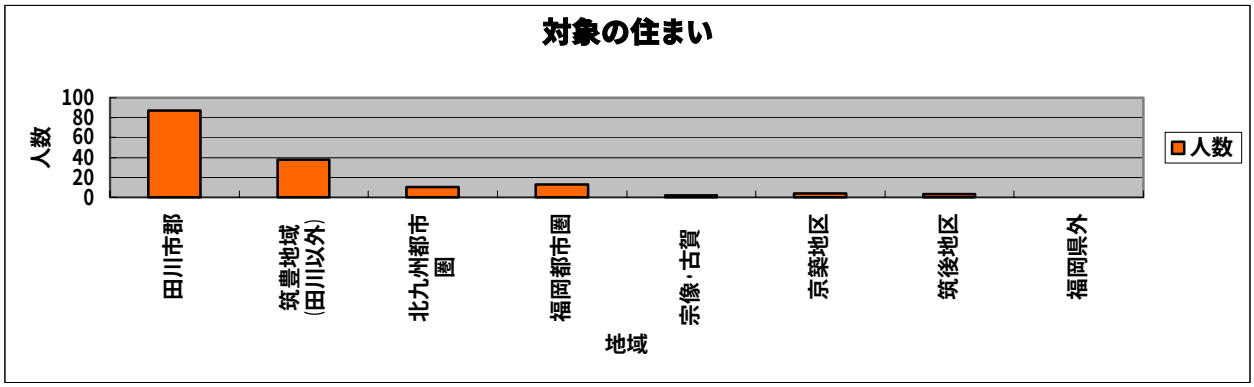
第１会場の展示のようす
（第２会場は車いすや介護用品を展示）

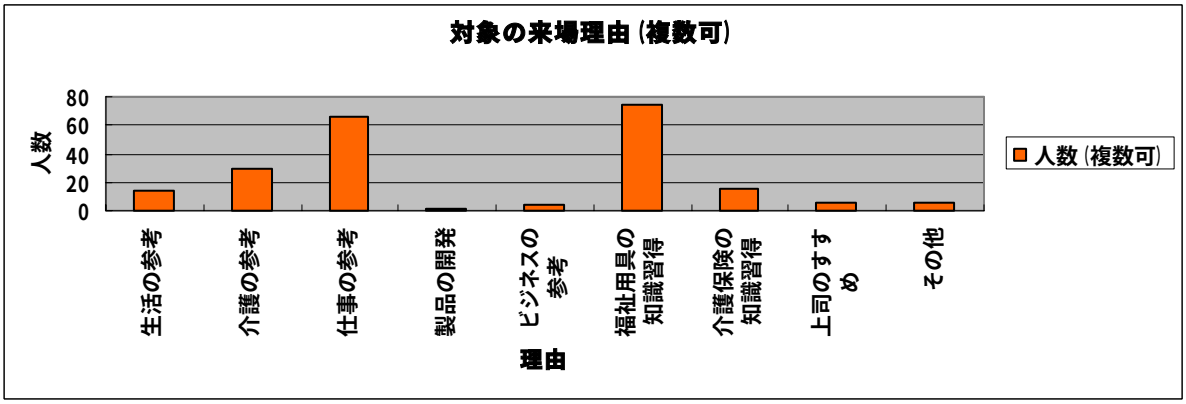
展示会場のアンケート調査結果 (157 名)

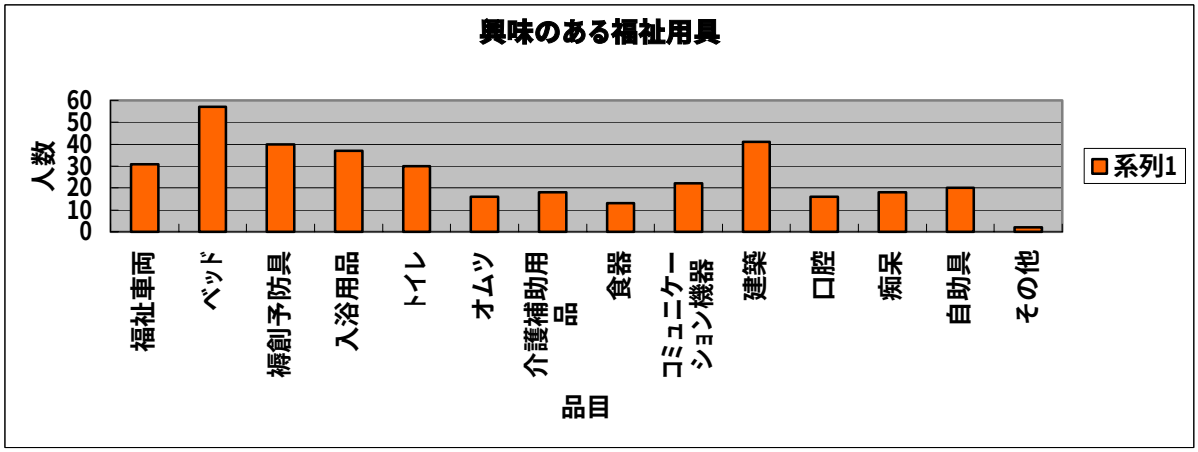












福祉用具フォーラム配布資料（ 一部 300円 ）販売中

福祉用具フォーラム FUKUOKA 2003 での基調講演、 渡邉愼一氏(厚生労働省)の「介護保険制度における福祉用具・住宅改修の現状と課題について」と「事例発表」の内容の配布資料(80 ページ)を販売します。ご希望の方は事務局にお問い合わせ下さい。

事務局　より

＊NPO 福祉用具ネットの新会員を募集中です。

個人入会金　１，０００円　年会費　　４，０００　　合計　５，０００円
団体入会金　２，０００円　年会費　３０，０００　　合計３２，０００円
賛助会員　１口　３，０００円

＊福祉用具･住宅改修の電話相談は無料です。是非ご利用ください。

電話　０９４７－４２－２２８６　（月曜日～金曜日　午後１時から４時まで）

介護保険制度でレンタルができる「トランスファーボード」を上手に活用して、介護者の負担を少なくできます。福祉用具の進化で介護方法も変化しています。

＊　移乗マニュアル　500円　　好評　発売中

平成 15 年 11 月 29 日
NPO 福祉用具ネット発行

「移乗マニュアル」　発売中

一冊　５００円
オールカラー　22 ページ

一部紹介

表紙デザインは林真由美さん

トランスファーボードを利用した移乗方法についてカラー写真で解説。
自立移乗・介助移乗(前方介助)(後方介助)など分かりやすく説明したマニュアルです。

購入方法は、直接「NPO 福祉用具ネット事務局」までお問い合わせ下さい。
TEL / FAX　　0947-42-2286